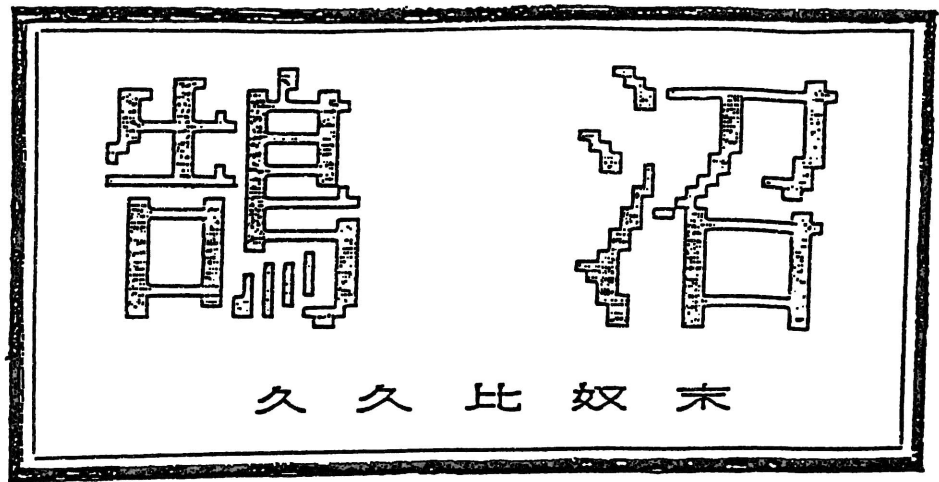




はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第 4 9 号

1 9 8 9 年 7 月 2 5 日

文化財見学

仁平 久秀

川崎市立日本民家園見学

田中まさ子

「結い」ということ

田中まさ子

鶺鴒 沼 を 語 る 会

文化財見学

仁平 久秀

「日向薬師」と「湖底に沈む宮ヶ瀬」

さる四月十五日（土）、かねてより鶴沼を語る会にて計画中であった、宮ヶ瀬ダムと日向薬師大祭の見学会が行われた。当日の天候は、予報では雨模様とのことで心配しておったが、参加者の日頃の心掛けが良かったのか、途中では、うす日もさす天候となり、おそ咲きの桜、新芽をふきはじめた木々を眺めながら目的地に向かう。バスの中では、公民館長の挨拶、行程の説明があり、バスの旅は快適なものであった。

第一の目的地の宮ヶ瀬ダムは、現在建設中である。昭和44年4月相模川が一級河川に指定された。これを機に、建設省において、宮ヶ瀬ダムの建設計画に着手した。従来、神奈川県は治水利用のため建設した相模ダム、城山ダム、道志ダム、等のダム群及び河川改修等を総合的に機能させるために、支川である中津川に大規模ダムを建設することにしたが、たまたまこの事業は建設省の直轄で立案されることとなった。事業費の概算は、約2400億円で、予定の工期は平成5年となっている。現在までに、種々の問題があった様であるが、工事は順調に進んでいる。

我々はすでに完成している宮ヶ瀬「虹の大橋」（全長330メートル）で、休憩をとった。出席者は年輩者が多かったのであるが、皆さん元気で写真など撮影した。次に昼食地である県立自然保護センターに向かい食事、休憩後日向薬師に向かった。

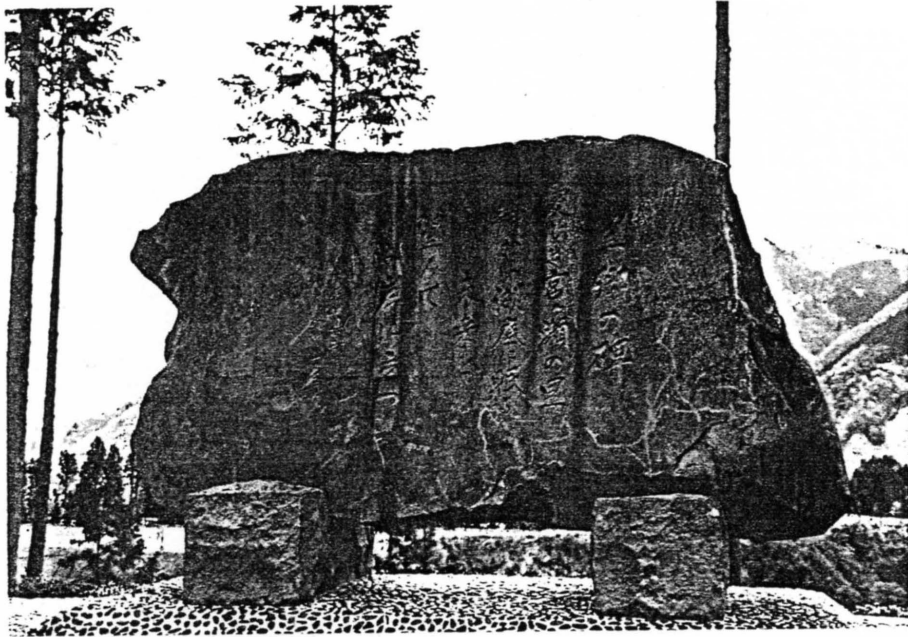
第二の目的地である日向薬師は、日向山霊山寺（真言宗）といい、寺の縁起によれば、行基菩薩が薬師如来の託宣により、大山東方山麓に白髭明神と熊野権現の二神の援助を得て、霊木に薬師如来像を刻んで一堂宇を構えたことに始まり、霊亀二年（七一五）の開基と伝えられる。本尊の薬師如来像（国重文）の関東以北に残存する鈿彫り（丸のみ横条線

を残したままの彫刻法)の仏像である。平安彫刻の傑作といわれている。こんにちでは、四月十五日、に開扉され、拝観が可能である。今回はこの四月十五日に当たり、丁度法要が行われており、薬師如来を間近に拝観することができて、誠に感激した。又当日は靈山寺の方々、山伏の方々によつて、古式豊かな神木たて行事が行われ、我々一同にとつては誠に有意義なものであつた。その後、紅白の餅が山伏の方々によつて配られ、この行事も順調に終了した。

終わりに、今回この行事見学を計画された公民館長ならびに塩沢代表に厚く御礼を申し上げます。

おわり

宮ヶ瀬ダムと日向薬師



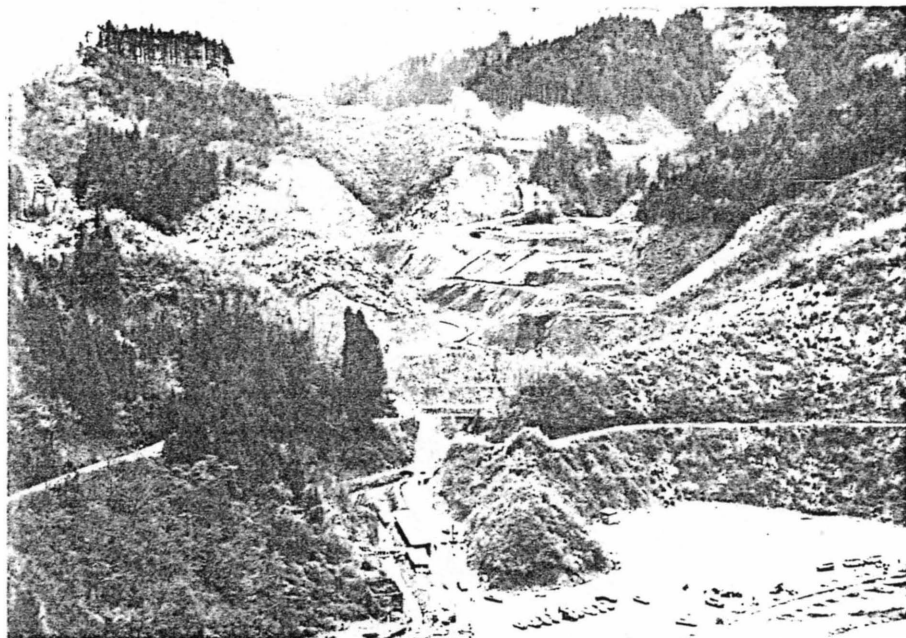
望郷の碑



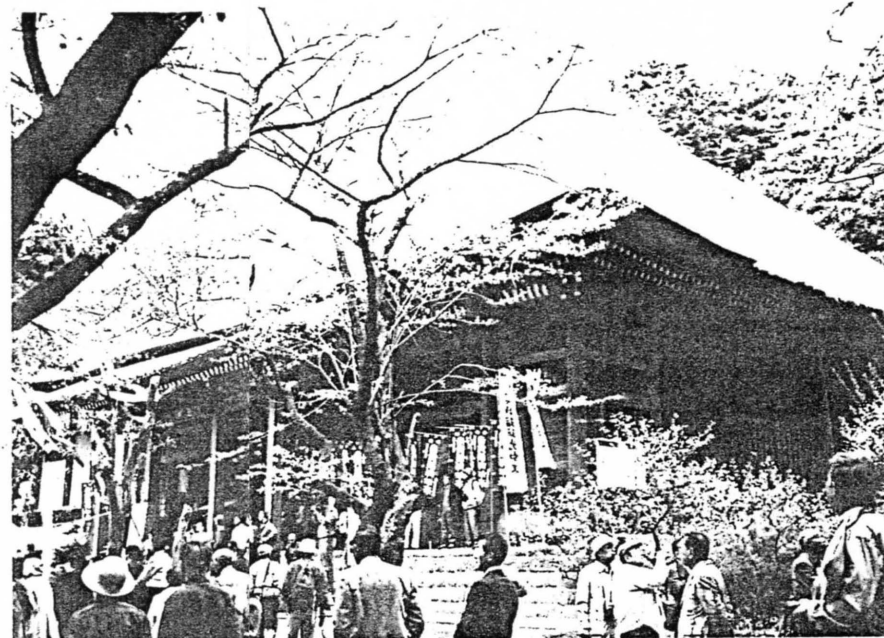
薬師如来座像



修験者の通行手形改め（神木祭）



湖底に沈む村



日向薬師霊山寺



川崎市立日本民家園見学

田中まさ子

梅雨の晴れ間の清々しい風が、若葉に渡って美しい緑りにさえる山、川崎民家園見学は、「語る会」の会員12名で7月4日に行はれた。前の日まで梅雨の大雨だった、雨を覚悟して出掛けたのに、曇り空ながら実にさわやかな見学の日となった。

これからの鶴沼のさわがしさを思えば、まったく別世界の静かな自然林の山あい、緑一杯の中に民家はどっしりと建てられてあつた。

「タイムカプセル」日本民家園を紹介しよう、宿場の村4軒・信越の村6軒・関東の村4軒・神奈川の村6軒・東北の村2軒合計22軒の内重要文化財が国指定8軒・神奈川県指定7軒・全部で15軒。一際目立つのは三重県志摩郡大王町船越「旧船越の歌舞伎舞台」入母屋造り棧瓦葺き、二階建ての回り舞台で安政4年(1857)に建立したとあり、国指定重要有形民俗文化財に指定されている。

ゆったりとした時の流れを感じて、私の頭は時代が逆戻りしたように一時現在を忘れた、お世話役の方々の配慮でゆっくり時間をかけて見て回ることが出来た。

民家で一番先に目に這入ったのは、どの家も土間と広い台所の床も柱も黒光していて、厚い壁や板戸に囲まれた部屋の暗さ、そしてそれぞれの家には「いろり」があった。その回りの床はつやつやとふき掃除がされており、この「いろり」を囲み何代もの祖父母、父母、兄弟、子や孫夫婦、ひこ孫と、毎日車座になって食事をしたり団だんがあり、色々な事があったのだらうと、眼に浮ぶ。

又建てられた時代は江戸時代の天井もなく、寒い土地の農家が多く座敷の他は粗末なものである。

それにつけても、私達が毎日住む家の狭いリビング、キッチンはある新しい家電器具に囲まれ、主婦の時間は余ってしまう。

此の民家の歴史的価値、間取り、外観の美しさなどは一通り見たが、ここに住んだ時代の女衆の苦勞はさぞ大変なことだろう、毎日の掃除、米、味噌、野菜の生産、大家族の食事、支度暗い部屋での裁縫、子育てなど、この当時はあたり前のことで雇人の多い家の主婦は先に立って働かなければならない。

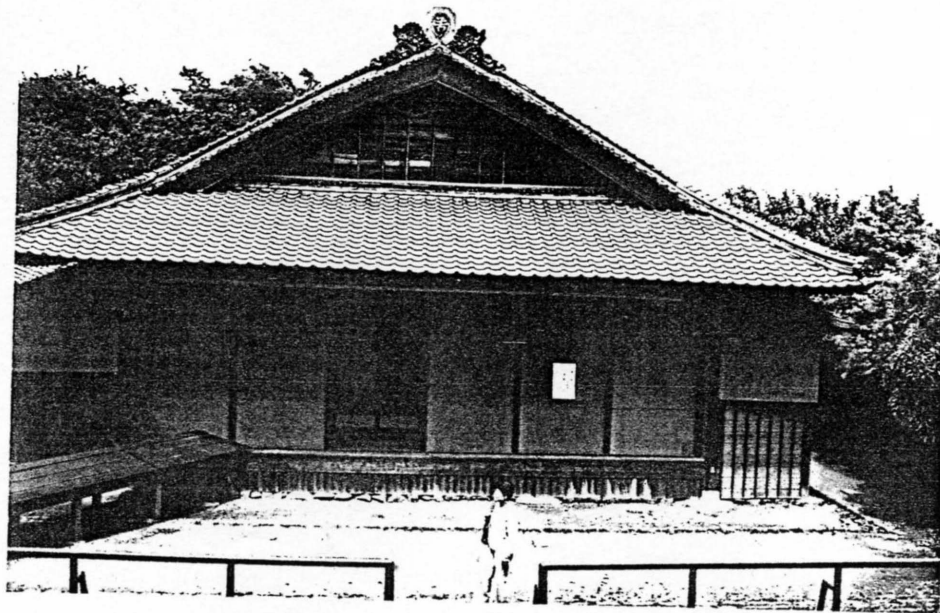
こんな暮らしで一生を終る女衆の生活がこの黒光のする柱から床からににじみ出ている。どの家の女達もつつましく家の中でも世間でも常に「家長」を立てて、別に美談でもなくあたり前のことだった、そのイヂラシサに私はどの家の台所からも女の溜息を聞いた思いであった。

此の見学で日本の古い時代の女をしみじみ考えへた。

文化財保護法というもよいが伝統的な暮らしは維持してゆくより、古い時代の女の涙を感じとってゆくために一度は見て欲しいと思いました。

おわり

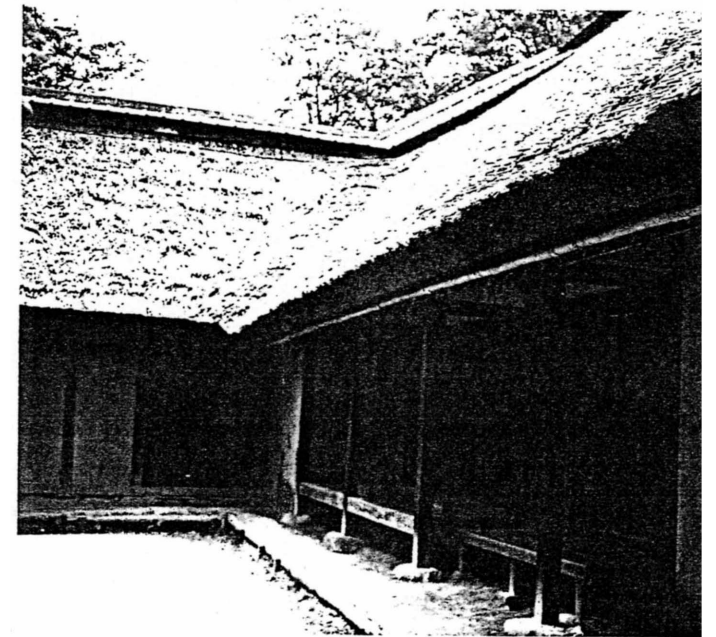
川崎市立日本民家園



船越の歌舞伎舞台
三重県大王町安政4年



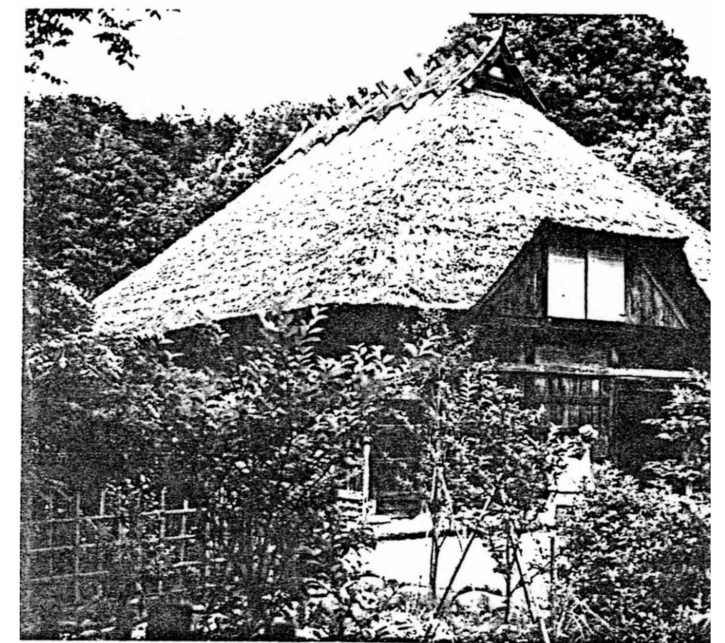
「馬宿」赤浦屋（南部駒を馬商人宿）
岩手県紫波町（約220年前）



曲がり家（まがりや）
福島県松川町（約180年前）



回り舞台（地下室の人力）



「結^ゆい」ということ

田 中 ま さ 子

私は昨年、信州の小さな町で二ヶ月余を過ごし、この土地の人の人情にふれて見て何となく安らかな暖かいものを感じた。親しくなつて、色々聞いてみると、まだこの土地には「結い」という約束が残つていて、生活の上にそれが生かされているとのことである。私は嬉しくなつて、民族学の本を読んで、他村ではどうかと調べて見ることにした。

鵠沼の本村の方には、組というので残っているとのこと。同じ鵠沼でも昔から住宅地のこの海岸の方では、たえて聞くこともない。「隣は何をする人ぞ」である。

今日（四月二十九日）何気なく教育テレビを回したら、土曜クラブという、若い人達が集つて、合掌作りの話をしていて。途中から見たのだが、白川の合掌作りの茅葺き屋根の葺き替えの作業をテレビで写していた。それは、この土地に家がある人が一人ずつ出て二百人で茅を手手に持つて、広い屋根へ上がり葺き替えの手伝いをしている。女衆は食べもの手伝いで大忙がし、夕方にはさしもの広い大きな屋根は葺き上がり、さつぱり片附いて村の人達は祝い酒、おにぎり（赤飯）を食べて踊つたり、笑つて話し合つたりとても楽しそう。私は見ていて、ああいいなあ、これが「結い」だと感じいつた。この家では又村の人達（手伝つて貰つた家人）の家へ手伝いに行くことが約束されているのだ。吉事凶事、作物のこと、手伝いのいることは皆助け合つてゆくのだ。

さて、私達の住む処はどうだろう。風景はいいが、人情だけでは成立しないことだけである。淋しいことである。文字通り老姥心であるが、このころの若い世代の上に起こる色々な事件はどうだろう。ただ驚きと喧々とさわぎ立てるばかりでは居られない。私達の時代は、というと又かと言われるが、もちろん大きなことは言えない。若い時代は、我が儘な世間知らず、反抗期、みなやつてきたが、人間として、してはならないことは親に、先生に、骨身に沁むほど言い聞かされてきた。親には甘えたが、先生、お巡りさん、みん

な「こわかった」し、とても高く敬ったものだ。

そんなお節介なことで聞く人もあろうが、いま年寄りが言わなかったら、誰が言うのか年寄りと言わずにはいられない。たとえ嫌われても、仕方がないとあきらめない。せめてこの地区からだけでも不心得の者を出したくないと思うこと切である。

おわり

「鶴沼」平成元年7月25日49号

平成元年 7月25日 発行

文化財見学 仁平 久秀

川崎日本民家園見学田中まさ子

「結い」といふこと田中まさ子

発行所 鶴沼公民館

藤沢市鶴沼海岸2-10-34

電話 33-2001

編集 鶴沼を語る会 代表

塩沢 務

藤沢市鶴沼海岸3-12-33

電話 36-7876